

【エクアドル内政・外交：2008年4月～5月】

1. 概要

●4月7日～8日、OAS ミッションはエクアドル及びコロンビアの両国関係の正常化のために当国を訪問した。4月29日、5月12日及び5月27日、エクアドル・コロンビア間の外交危機を克服するためにOASの仲介により、パレンシア外務省筆頭次官とレジエス・コロンビア外務省筆頭次官の会合が実施された。

●4月11日、ハーグ国際裁判所はコロンビアによるエクアドル北部国境地域におけるコカ栽培撲滅のための農薬空中散布に対するエクアドルの訴えを公式に受理した。5月29日、同裁判所は、両国の報告書提出スケジュールを確定するために両国代表団を召喚し、エクアドルに対し1ヶ月後の2010年3月29日までに報告書を提出するよう決定を下した。

2. 内政

(1)4月8日、コレア大統領は、サンドバル国防大臣の後任として、ポンセ大統領府個人秘書を任命した。ポンセ新国防大臣は、2007年8月以降大統領府個人秘書として勤めてきた。また、「エル・ユニベルソ」紙及び「オイ」紙にて論説記者も勤めている。サンドバル大臣の辞職の理由は具体的に表明されていないが、3月1日発生したコロンビア国境付近のエクアドル領内 FARC 拠点へのコロンビア政府軍の攻撃に関して発覚した米国 CIA と当国軍部との間の情報活動に係わる関係(4月5日、コレア大統領は右関係を烈しく糾弾した)がその背景にあるとして報じられた。

(2)4月10日、コレア大統領は、辞任したシスネロス国家警察庁長官の後任として、ウルタド国家警察地区長を任命した。コレア大統領は、ウルタド新長官に対し、国家警察近代化プランの継続を求めた。また、同大統領は、国家警察に対する政府の支持を再確認した。なお、同日、軍統合参謀本部長、陸軍最高司令官及び空軍最高司令官も辞任し、その後任として、バレラ新軍統合参謀本部長、ゴンサレス新陸軍最高司令官及びボオルケス新空軍最高司令官が任命された。シスネロス長官等の辞任の理由は具体的に表明されていないが、4月11日付当地紙各紙は、同辞任を、コレア大統領が、米国 CIA による当国インテリジェンス部門諜報活動の疑い及び当国インテリジェンス部門による米国 CIA への情報提供の疑いを糾弾したことにより発生した同大統領と軍・警察との緊張関係に端を発するものであると報じた。

(3)4月22日、アコスタ制憲議会議長は、辞任したガライコア国家法制局長官の後任としてガルシア氏を任命した。当地報道によれば、コレア大統領はガライコア前国家法制局長官辞任の理由の1つとして石油契約破棄に基づき米国石油会社オキシデンタル社が申し立てた国際仲裁裁判所での訴訟が遅々として進展しなかったことを挙げていたとの由で、4月21日、同大統領は国家同盟所属の制憲議会議員との会合にてガルシア氏を次期国家法制局長に推薦していた。

3. 外交

(1)対コロンビア関係

(イ)コロンビアによるエクアドル領内 FARC キャンプ攻撃

(a)4月2日、サルバドル外相は、3月29日にコロンビア政府から提出のあった FARC 幹部「ラウル・レジエス」のパソコンから発見されたという情報を当国プレスに公表した。当国外務省プレスリリースは、「3月29日、コロンビア政府は、在コロンビア・アルゼンチン大使館(当館注：当国はコロンビアとの外交関係断絶状況にあるため、同大使館をコロンビアにおけるエクアドル政府代表機関としている)に対し、24文書をデジタルデータなしに、また、法的有効性を持たない形式にて提出した。コロンビア当局によれば、パソコンには約16,000文書が存在するというのであるため、今次提出のあった情報は偏ったものであると言える。」と報じた。

(b) 4月7日～8日、OAS ミッションはエクアドル及びコロンビアの両国関係の正常化のために当国を訪問した。4月7日、サルバドル外相は、OAS 事務局長の代理としてのリコ(Victor Rico)OAS ミッション団長やその他ミッションメンバーと会談し、先般の OAS 外相協議会で採択された決議の執行に関し協議を行った。

(c) 4月13日、ポンセ国防大臣及びエクアドル軍は、エクアドル政府と FARC との間に何らかの関係が存在したことを示唆するコロンビア政府発出コミュニケを、「エクアドル政府を FARC と結びつけようとする意図」から出された新たな嘘であると訴えた。また、同大臣は、「コロンビア政府は、エクアドル軍とエクアドル政府の間に存在する信頼を崩すために今次コミュニケを発出したに過ぎない。しかし、エクアドル軍とエクアドル政府は、コロンビア政府のメディアを利用したキャンペーンに立ち向かうべく一体となっている。」と述べた。更に、ポンセ大臣は、「我々は、コロンビア政府に対し、48時間以内に今次コミュニケが事実であることを示すよう、また、どの筋からの情報であるかを示すよう厳命する。もしコロンビア政府が48時間以内に証拠を示さないようであれば、再度、嘘つき政権ということになる。また、当国外務省が以前から要請している航空機のビデオのコピー及びパソコンの磁気情報の提出もコロンビア政府に要求する。」と述べた。

(d) 4月18日、インスルサ OAS 事務局長は、コロンビア軍及び警察によるエクアドル領域侵害に関し去る3月17日に採択された OAS 外相審議会での決議に基づき、当国を訪問した。同事務局長には、リコ(Victor Rico)維持局長、Patricia Esquenazi 報道官及び Ana Perez Katz 顧問が同行した。4月18日、コリア大統領はインスルサ事務局長と会合を持った。同会合には、サルバドル外相、バレンシア外務省筆頭次官、バルベリス外務省主権・国境担当次官及びイスキエルド外務省多国間関係担当次官が同席した。インスルサ事務局長は、コリア大統領との会合後、「現状をより良くしていくための良い環境があるため、(エクアドルとコロンビアの)二国間関係が改善される可能性は高い。コロンビア政府との論争を継続するつもりがないという趣とのコリア大統領の発言は非常に明白であった」と述べた。

(e) 4月29日、インスルサ OAS 事務局長の仲介工作に基づき、バレンシア当国外務省筆頭次官とレジェス・コロンビア外務省筆頭次官との会合がパナマに於いて実施された。上記会合に出席したリコ OAS 事務局長代理は、今次会合は両国外交関係断絶後初の会合であり、友好的、肯定的、及び建設的に実施されたと述べた。

(f) 5月8日、ポンセ国防大臣は、エクアドル軍による調査の結果に基づき、「エクアドルは、コロンビアがエクアドル領内FARCキャンプを攻撃した際、第三国の協力を得ていた可能性を訴える。」と述べた。ポンセ大臣は、「我々の調査によれば、コロンビア軍の所有する超高速機はGPSシステムによる爆撃能力を備えていない。コロンビア軍所有の超高速機に同能力を持たせるためには、飛行機の総合デジタルコンピューターと爆弾との間に電子インテグレーターを備え付ける必要があるが、この備え付けは約8ヶ月を要する。従って、去る3月1日、ウリベ政権は単独でFARCキャンプを攻撃したのではなく、第三国の協力を得て実施した疑いがある。」と述べた。

(g) 5月12日、リマに於いて、バレンシア当国外務省筆頭次官及びレジェス・コロンビア外務省筆頭次官が2度目の会合を実施した。両筆頭次官は、3月17日に採択されたOAS外相審議会での決議の履行に関するOAS事務局長の提言を検討するとともに、4月29日にパナマで取り上げられたテーマについてのフォローアップも実施した。

(h) 5月16日、コリア大統領は、第5回ラ米・カリブ・EUサミットに於いて、対コロンビア問題及びインターポールが提出した報告書(FARCキャンプにおいて押収されたコンピューターがFARCの所持品であり、またその内容は改竄されていなかったとする報告書)に関し、エクアドルは平

和的国家であり「その手を汚していなければ、血に塗れてもいない」と述べた。また、同大統領は、「インターポールやウリベ政権の発言は相手にしない」と述べた。

(i) 5月27日、エクアドル・コロンビア間の外交危機を克服するためにOASの仲介により、パレンシア外務省筆頭次官とレジェス・コロンビア外務省筆頭次官の第三次会合がパナマに於いて実施された。上記会合に出席したリコ(Victor Rico)OAS事務局長代理は、信頼関係回復のための手段及び安全分野協力について話し合われたとし、プロセスは「急速に進展している」と述べた。

(ロ)コロンビアによる農薬空中散布

(a) 4月11日、エクアドル外務省は、ハーグ国際裁判所がそのホームページ上のプレスリリースにおいて、コロンビアによるエクアドル北部国境地域におけるコカ栽培撲滅のための農薬空中散布に対するエクアドルの訴えを公式に受理したと報じた。

(b) 5月8日、ハーグ国際裁判所事務局は、エクアドルに対し、今次案件に係わる両国の見解につき承知するため、来る5月29日15時に同裁判所長官が双方の代理人を召喚する予定であると通報越した。同通報は、エクアドルが、国境地域での非合法的栽培撲滅のために除草剤空中散布を行うコロンビアを、ハーグ国際裁判所に訴えていたことを受けてのものである。

(c) 5月29日、Rosalyn Higgins ハーグ国際裁判所長官は、エクアドルが国境地域での非合法栽培撲滅のために除草剤空中散布を行うコロンビアをハーグ国際裁判所に訴えていたことを受け、両国の報告書提出スケジュールを確定するため、エクアドル代表团及びコロンビア代表团を召喚した。エクアドル代理団長はコルドベス(Diego Cordovez)大使、コロンビア代理団長はロンドンヨ(Julio Londono)大使であった。コルドベス大使はエクアドル法律グループの示唆に基づき報告書提出のため11ヶ月の期間を要求し、同要求はコロンビアにより承認された。それを受け、ハーグ裁判所はエクアドルに対し11ヶ月後の2010年3月29日までに報告書を提出するよう決定を下した。

(2)対メキシコ関係

4月10日～12日にかけてカルデロン・メキシコ大統領の招待を受けコリア大統領はメキシコを公式訪問し、カルデロン大統領と会談した。両大統領は、メキシコ教育省とエクアドル教育省の間での通信教育に関する協定、体育・スポーツに関する協定の他、資格及び研究の認定に関する協定に署名した。

(3)対パラグアイ関係

4月21日、コリア大統領は、ルゴ候補の勝利について、「(ラテンアメリカ)地域に蔓延する最悪なモデルを決定的に埋葬するためのもう1つの礎石である。また、公平で、主権を有し、独立で、社会公平を模索する社会主義の新たなラテンアメリカの基礎となるもう1つの礎石である。」と述べるとともに、ルゴ候補が司祭であった時にエクアドル・ボリバル県で行った事業を讃えた。

(4)対アルゼンチン関係

4月20日～21日、フェルナンデス亜大統領は、株式会社 Coca Codo Sinclair による当国最大の水力発電所建設竣工式に出席するため当国を公式訪問した。同大統領には、タイアナ外相及びデビド連邦企画・公共投資・サービス大臣が同行した。4月21日、コリア大統領は、フェルナンデス大統領とともに、株式会社 Coca Codo Sinclair による当国最大の水力発電所建設竣工式に出席した。同水力発電所は、エクアドルの電力母体となるだけでなく、クリーンエネルギー供給源ともなる。株式会社 Coca Codo Sinclair は、当国国営電力会社の Termopichincha と亜の ENARSA により設立された。

(5)対ブラジル関係

(イ)4月29日、ジョビン・ブラジル国防大臣は、コリア政権に対し、ルーラ政権が推進している南米防衛審議会に対する支持を要請した。ジョビン国防大臣は、コリア大統領と会談を行った後ポンセ・エクアドル国防大臣と共同声明を発出し、防衛は軍事に限ったテーマではなく市民社会全体のテーマであると述べるとともに軍人の交流、軍隊の共同訓練、人道的問題に対する平和的共同活動等を提案した。ポンセ国防大臣は、南米防衛審議会設立というブラジルのイニシアティブを南米諸国全体にとって非常に関心の高いテーマであるとし、エクアドル政府は同イニシアティブに共感すると述べた。

(ロ)5月23日、コリア大統領は、南米諸国連合(UNASUR)憲章に署名するためブラジリアを訪問した。23日、同大統領はブラジルテレビ局2局のインタビューを受けた後、ルーラ・ブラジル大統領、モラレス・ボリビア大統領及びチャベス・ベネズエラ大統領と朝食を共にし、地域統合について協議した。

(6)その他

5月7日、コリア大統領は、主権・食糧安全首脳サミットに出席するためニカラグアを訪問した。同大統領には、サルバドル外相、サガステイ工業競争力大臣、ポベダ農業・牧畜業・水産業・漁業大臣、カベサ生産調整大臣及びパティエーニョ政治調整大臣が同行した。コリア大統領は、上記サミットにおいて演説を実施するとともに、同サミットに出席の各国首脳と共に共同宣言に署名した。

※以上は、当地新聞情報を取りまとめたものです。